

5 生きてはたらく活用力を育む指導

(1) 学習指導要領との関連と活用力

○本単元で重点化したい音楽科の指導内容

本題材は、学習指導要領の第1学年及び第2学年の目標と内容

【A 表現：(3) 音楽づくり】

ア 声や身の回りの音の面白さに気付いて音遊びをすること。

イ 音を音楽にしていくことを楽しみながら、音楽の仕組みを生かし、思いをもって簡単な音楽をつくること。

【共通事項】の中でも特に、

ア (ア) リズム、拍の流れ (イ) 反復、問いと答えなどの音楽の仕組み

○本単元で求めたい言語活用の姿

低学年の音楽づくりにおいては、一人一人が考えたリズム(音)をグループみんなで合わせることで、一つの形式(音楽)にしていくことが重要である。このことは、音楽を構成する面白さを感じ取ることにつながる。ここで言う、一人一人が考えたリズム(音)は言語を示し、グループみんなで相談をして一つの形式(音楽)にしていくことが活用の姿と考える。また、拍の流れにのって表現し、音楽の仕組み(組み合わせ方や順番の工夫)の活用をしてみんなの思いを音楽にしていく学習を展開する。

児童の実態

歌ったり身体表現したり、元気に満ちあふれ楽しみながら活動する子供たちである。言葉素材にしたリズム遊びでは、題材のイメージをふくらませ表現する活動を行った。自分なりの言葉を使ったリズム遊びから、友達と言葉をつなぎ合わせ、簡単な音楽づくりを経験し楽しんできた。しかし、言葉遊びやリズム遊びで友達のまねやパターンを使った活動はできても発想豊かに自分の考えを自由に表現することには課題が残る子もいる。

心を開放して音楽を楽しむ姿が多く見られるが、落ち着いて音楽を聴くことや、拍に合わせて体を動かすこと、音楽に合わせて自分の表現を工夫することなどにやや課題をもち、まだまだリズムにのりきれなかったり、自分の思いを体全体で表現したりすることに抵抗がある子もいると感じている。また、発表になると急に声が小さくなることもある。しかし、興味のある題材に触れると積極性が増し、聴き合う活動も充実して行える。

(2) 思考を生かす情報活用・言語活動の展開の工夫

①遊びを取り入れながら学ぶリズムづくり

リズムを表現することが難しいという苦手意識を取り除く手立てとして、リズムカードを作成し、フラッシュカードのようにして遊んだり、体全体でリズムを表現したりしてリズムに親しむようにしていく。また、まねっこリズム遊びを毎時間行ってリズム遊びに慣れてから各自にリズムカードを配る。ゲームのようにカードを選ぶ楽しさも味わわせることで抵抗なくリズムを選択し取り組めるようにしていく。

②視聴覚に訴える情報活用

子供がより意欲をもって取り組めるようにおまつりの写真を掲示する。また、2学期に学習したいろいろな地方のおまつりの映像や音源を活用し、学習を思い出せるようにする。リズム遊びをパターン化し、拍の流れにのって一人一人がつくったおまつりのリズム表現と掛け声を合わせ楽しみながら、グループで相談したり合わせたりすることで子供の感性や表現力をより豊かにしていく。また、自分たちの表現をCDに録音して聴き、客観的に捉えたり考えたりできるように機器も活用していく。